

ほんあづま
顕正教祖伝目録 2

ほんあづま編集室

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
56	457 立教 170 年 03 月 (2007)	神かな、月日かな、をやだな	「かみ」かな、誤解されている言葉 神勅・八紘一字で天理人道 「月日」かな、天然自然の理 「をや」性を別けてたすけ合い人間に成人させた 人をたすける心構えで勇める 教祖存命の理	
57	458 立教 170 年 04 月 (2007)	人間世界始め出し	一、旧約聖書（一神教） 二、記紀神話 一神教と神憑り 多神教から一神教へ（記紀神話） 三、中山みきの人間始め出し 針ヶ別所に次いで大和神社事件 守護の理と神名	
58	459 立教 170 年 05 月 (2007)	ひながたはやしきの掃除	歪められた教祖伝 天下りと神憑り 隠された事実 神名流し つとめ場所ふしん 天輪王明神 天つ神信仰 天理人道 天皇制軍国主義 みかぐらうたとおふでさき 泥海中のドジョウに性別つける 拝み祈禱で行くでなし 高山教育 差別暴力主義 さづけについて	
59	460 立教 170 年 06 月 (2007)	たすけ合い人間誕生	差別思想三大因縁 尊い魂の御因縁 神世七代は兄妹婚 「所」陽気づくめ世界発祥の地 たすけ合い人間を生み出す陽気つとめ 山澤父子と秀司・真之亮 教祖の人間始め出し 『おふでさき』三号・四号 建物取り払え やしきの掃除 天下り 神憑り いんねん	

回数	通巻号 発行番号	タイトル	見出し	備考
60	461 立教170年07月 (2007)	高い山から往還の道	おふでさき 第五号 屋敷の掃除 善悪の根本を改める たすけ合い人間のたすけ合い世界 神にもたれるとは真理に沿って本性の解放 おふでさき 第六号	
61	462 立教170年08月 (2007)	おふでさき 第六号の後半	今までにない事ばかり よろづたすけのつとめ教える	
62	463 立教170年09月 (2007)	おふでさき 第七号 産屋、疱瘡の許し	教祖と大教院廃止 苦の娑婆にたすけ合い世界創造 許しは御利益ではなく生活改善 たまへは誰の子 利益ではなく迷信打破の実践 かんろだいのつとめ一条 まとめ	
63	464 立教170年10月 (2007)	明治八年の宗教情勢 (質問に答えて) 転輪王(仏教)と天理王命(神道)	神はあるのか、ないのか 超自然的神と天然自然の理 神をわからせるつとめ つとめで教えた陽気づくめへの道 教祖に背いた天理王命のつとめ 「死後の靈魂」 人間世界、始まりの話 教祖存命の理 仏教と神道の違い 教師千四百人辞任させた神道天理教 教祖を無視する神道天理教団役員 八島が真実を教えたら天理教信仰の根幹が崩れる	

回数	通巻号 発行番号	タイトル	見出し	備考
64	465 立教170年11月 (2007)	おふでさき第八号 (ほこり、ついしょ、うそ)	高山のつとめさしとめ、秀司の綿庫取払い 我身思案 要求するのが不満の基 たすけ合い人間世界の始め出し かぐらで教えた月日の理 泥海古記は神道原理主義 おびやほうそは天然自然の理 かぐら、手踊りは真理教育 支配者の掟が神の掟 人間の無知が天然自然の残念 一人より始まり来たる道	
65	466 立教170年12月 (2007)	おふでさき第九号	神・月日・及びをやは天然自然の理 修理や肥に医者薬 天然自然の理を教えるためのかんろだいつとめ つとめのちばが元のちば 心身の調和安定教えたかんろだい かんろ、じきもつはつとめの成果 それぞれ皆異うがたすけ合って円く治める おみちの基本は自由、たすけ合い、平等	
66	467 立教171年01月 (2008)	おふでさき第十号	から(倒し合い)とにほん(たすけ合い) 合理性を求める時句と取次人 役割は修業次第 根元的な話を世界に教える 月日手入れ 取次、人足、口記 天然自然を制度化する 一手一つ	
67	468 立教171年02月 (2008)	おふでさき第十一号 取次とそばなもの	教祖の教え 転輪王の借物の理 みちとせかい、個性解放と人欲抑制 心の後継者はこかん 家の跡取はまつゑ 梶本こかんの立場について言う みち(平等、個性解放)とせかい(差別、服従) 陽気づくめ ちば定めで、ちば探しではない おふでさきの宛名	

回数	通巻号 発行番号	タイトル	見出し	備考
67 続 き	468 立教 171 年 02 月 (2008)		教祖はよふぼくの心の中に生き続ける 泥海古記は教祖の教ではない 天理王命のつとめは教祖の教ではない	
68	469 立教 171 年 3 月 (2008)	おふでさき第十二号 取次とそばなもの	外冊おふでさき 世界たすけの真理みかぐらうた、おふでさき 人をたすける心ないので 雨の降らぬ時ほど人の田に水をやる、豊作、痲瘡、迷信打破 うそ、ついしょ、ほこり 神名を廃してつとめ人衆の役割	
69	470 立教 171 年 4 月 (2008)	おふでさき第十二号	神の胸にもほこり 元始まりの話 をやなる神と裁く神 善と悪 かぐら・ておどり 忠孝道徳で迷信宗教 教祖の教は今までと違う つとめとさづけ たまへとまち 月日の理と高山の権力 雨乞いつとめ 嘘を説く者への立腹 心の入れ替え	
70	471 立教 171 年 5 月 (2008)	おふでさき第十四号	ゆめでなりとも匂いかけ 教祖は仏教界で高く評価されている かまい、つきもの、ばけもの否定 やまいはたたりと思われていた たすけ合い人間の陽気づくめ世界 月日から親 天皇の理想も転輪王だった 善悪決める権力者 教祖のさしづ天然自然の理 高山のさしづ天理人道 陽気づとめとは、自由、たすけ合い、平等 ミュージカル「陽気づくめ」	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
71	472 立教 171 年 6 月 (2008)	おふでさき第十五号 たす けつとめで自由、平等教育	中山家をついだのはこかん 泥海古記作成中の山澤良助 戸主と隠居の懸引きではない 秀司の足と反省ない心 倒し合い - つとめの理 - たすけ合い人間 をやのからだや - 真理通りに働く世界 たすけ合い人間の本性教えたつとめの理 心ちがえば、可愛い子でも 天皇制軍国主義は差別・暴力主義 差別教育天理人道と教祖の教は天の理	
72	473 立教 171 年 7 月 (2008)	おふでさき第十六号	おふでさきと山澤神道「泥海古記」 かぐら兩人 「人間始め元なるを」説く旬 背いた者に真理教育 「子供かたづけ」音次郎は秀司の子か 真理を知れば悩みが晴れる 聞きたがらなくとも真理を説く 秀司死後思い切って話をする 音次郎を養子に出し、真之亮を養子にする みちとせかい 解放道徳と服従道徳 おみちの基本はかんろだいつとめで教えられた教理	
73	474 立教 171 年 8 月 (2008)	おふでさき第十七号	泥海古記は教祖の教ではない 本当の人間とは「たすけ合い人間」 十四年の手続書 教祖を陥れた密告の書 教祖存命の理と靈魂不滅説 背いた者にも真理教育 さんねんはらす真理教育 世界中のつとめのちばと「もとなるちば」 かんろだい取払いが一の残念	
74	475 立教 171 年 9 月 (2008)	なるほどの理	つとめの理が神、権力者の名ではない 天理人道は天皇制軍国主義 惟神の道 神勅と八紘一字 大教宣布の詔と大教院制	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
74 続 き	475 立教171年9月 (2008)	なるほどの理	今までの宗教と諸行無常の仏教 天理人道は差別、力の支配、服従 陽気づくめ 陽気づくめは解放理論 人間始め出しの話 たすけ合い進化論とダーウィン進化論 読者の声 まとめ	
75	476 立教171年10月 (2008)	続なるほどの理	かんろだいつとめは天然自然の理 たすけ合い人間の始まり 天皇も人間 われへ百姓も同じ魂 十人十色で、みんな一番 代わってわびるのが、親心	
76	477 立教171年11月 (2008)	二つのかりものの理	偽りの書「泥海古記」 公地公民制と転輪王のつとめ 三宝の奴・聖武天皇 おつとめの前に朝夕神拝祝詞 さづけ（結縁灌頂）とつとめ 伝法灌頂、輪王灌頂、即位灌頂 たすかりたいではたすからん たすける心になるつとめ 心も体も生き通し からだは子孫に生き続け 子孫より「理の子」で陽気 悪しき心遣いは種にはならぬ まこと一つの理で自由 宗教は習慣か、圧力か さづけの基本 なるほどの理、言葉が心をつなぐ 『朝夕神拝祝詞』	
77	478 立教171年12月 (2008)	「二つのこふき」教祖と山澤	山澤良治郎の手続書 つとめ場所 神憑りではない 祈禱ではない おみちは蛇神信仰ではない 中山みき教祖の人間始め出しの話	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
77 続 き	478 立教171年12月 (2008)	「二つのこふき」教祖と山澤	神名と守名 「守護に神名を」とは まとめ	
78	479 立教172年1月 (2009)	たすけ人間始め出しの話	教祖の人間始め出しの話 戦後唯一の教義書、新「天理教教典」 一神教と輪廻転生 諸行無常の仏教と輪廻転生の仏教 泥海中のドジョウ 九九九九九九について 再三の絶滅発生 うをとみ つとめの理、天然自然の理が神 道具衆の役の名 「みかぐらうた」は谷底せり上げの理 山澤良治郎の手続書	
79	480 立教172年2月 (2009)	教祖の教 たすけ合い進化論	神道天理教 山村御殿のふし 理神論でも生きられる 二つのこふき 神とは 道徳と信仰	
80	481 立教172年3月 (2009)	高山の説教と真実の神の話 「高山の説教」 かぐらつとめで教えた「真実 の神のはなし」は天然自然の 理 用語解説	かぐらとマンダラ 「高山の説教」と天理人道 真実の話は新たな説 一人より始まり来る道 神と理 天理人道教育 神勅・八紘一字 かぐらつとめと胎蔵界マンダラ 陽気とは調和 かんろだいつとめの理が道教せ、手引き	
81	482 立教172年4月 (2009)	こふき話の真と偽 教祖を陥れるための泥海古記 教祖の人間始め出しの話	神という言葉 諭達八号 たすかりたいではたすからん 道具衆に神名 陽気づくめは、何時でも、何処でも、誰でも	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
82	483 立教 172 年 5 月 (2009)	もとのいんねん おふでさきの中のいんねん の言葉について	借物の理の誤解 「たすけ」ということ 標本分署跡という聖地を世界たすけのためにお預かりして 真実なくして生き甲斐なし 真実の道に命をかける 警察にあった教祖を陥れた文書 いつでも、何処でも、誰でも通れる唯一のひながた 中山みきの教えた「いんねん」 「今」とは 甘露という言葉	
83	484 立教 172 年 6 月 (2009)	世界たすけるつとめの理 神・月日及びをやに和す 教祖に背いた「稿本天理教教祖 伝」	さづけとは「結縁灌頂」という仏教語 真理の取次の許し「伝法灌頂」 みかぐらうたは天然自然の理 たすけ人間の本性で生きるのが自由 山村御殿のふしから神を月日の理 神道天理教の差別教育 天皇を神と尊ばない不良教師 『稿本天理教教祖伝』は却下された原稿 教会本部の教育改革 天理時報差別記事事件 「私の教理勉強」『みちのとも』に連載 服従させるために戒律を説く 性と聖 生みの子より理の子 理に基づいた生きる	
84	485 立教 172 年 7 月 (2009)	さづけは生涯一度のたすけ 一条の誓い	神の思案 人間思案 吾身思案 苦の娑婆という迷信をつとめで根絶 多神教の歴史 天神地祇、八百万の神 一神教 宿業論 輪廻転生 仏教は諸行無常 存命の心身 つとめで教えたたすけ一条 服従を強いる一神教 つとめは霊肉一元論 善一元論 中山みき教祖の善一元論	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
84 続 き	485 立教172年7月 (2009)	さづけは生涯一度のたすけ 一条の誓い さづけの理 かぐらつとめの言葉は歌です	形のたすけ 心のたすけ 理のたすけ さづけはたすけ一条の入門 たすけ教学 理解してもらうための苦勞 復元していない教理書 教典 教典改編なしで多くの人が挫折 標本分署の修理保存 おさづけのお書下げ	
85	486 立教172年8月 (2009)	天然自然の理	標本のおたすけ「神が踏んばる」 思案して心定めて 肥のさづけ 天然自然の理が神 理に従う。理に沿う。理に基づいて生きる。 陽気ぐらしのひながた 理のたすけ 自己中の是非 天然自然の言葉の目立つ「おさしづ」の一部	
86	487 立教172年9月 (2009)	真理と旧宗教教理 十六年説話体榊井本について	天然自然の理が神 心の共有が喜び 奇跡創造説と進化論 真理と教理 筆々々をとれ 泥海古記は反教祖の山澤理論 十四年のふしと山澤手続書 国つ神から天つ神 魂の因縁 だめ(最後)の教 つとめのちばに存命の教祖 世界中にかんろだいを 「かみ」という言葉について	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
87	488 立教 172 年 10 月 (2009)	大いなる誤解	進化論か、奇跡創造説か すべての働きは一の神、一の道具 教祖は天然自然の理 理想的人間像転輪王と 阿弥陀仏の願い 世界一れつたすけたい 神様のめどうは鏡か、かんろだいか	
88	489 立教 172 年 11 月 (2009)	おさづけ許しのおかきさげ	おさづけとは たすけ一条の借物の理を学ぶ別席 つとめの理をだめの教という 一神教 輪廻転生 運命論も宿業論も霊肉二元論 諸行無常の後に教祖のだめの教 強制は喜びを消す 神の貨物と公地公民について 自由の喜び 誠一つが天の理 人をたすける心は真の誠 三十歳以下の人に 間違った論しも多かった 信仰とは たすけ一条の神は私の心に生きている	
		最近の天理時報から		
89	490 立教 172 年 12 月 (2009)	人間の本性たすけ一条	どれが本当の教典か 公刊六十年の教典 昭和教典 幻の教典 天理大、卒業論文 二分した教授たち 別席とは 服従させてはいけない たすけ一条の神の貨物と公地公民制 心と体は一つもの、陽気のために心の自由 誠一つが天の理 成程の人 信仰の目的 たすける喜び	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
89 続 き	490 立教172年12月 (2009)	人間の本性たすけ一条	参拝やお尽くしは無理するな 三十歳以下の人に対する注意 十一月号巻頭言 さづけは身上たすけではない おかきさげ 陽気の定義 教祖存命の理 思案して心定めてついて来い 特に借物の理の誤解が重大 むすび だめ(最後)の教えとは	
90	491 立教173年01月 (2010)	つとめさづけ 服従教育は心の傷になる	神道化に伴う別席の変質 生きながら生まれ変わるかぐらうた みかぐらうたとは よろづよ八首総則 一・七下り目 二・八下り目 三・九下り目 四・十下り目 五・十一下り目 六・十二下り目 かんろだいのかぐらつとめ おかきさげの要約	
91	492 立教173年02月 (2010)	今ここで、私が始める陽気世界	最後の仕上げはかぐらつとめ 宗教史が大切 あまつかみとくにつかみ 霊肉一元論 目連の死 仕上げの教とかんろだいのかぐらつとめ かなの教 たすけ合いの標本 教祖のこふきと和歌体十四年本のこふき だめ押しの教、かんろだいつとめ かなの教のかぞえうた 忠孝道德は服従教育	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
91 続 き	492 立教173年02月 (2010)	今ここで、私が始める陽気世界	貝原哲学 人は教育次第 中山みき たすけ一条の貸物 いわゆる「泥海古記」は教祖の教ではない 二つの借物の理	
92	493 立教173年03月 (2010)	理に基づいてこそ種になる デカンショ節	理にそって初めて種になる たすけることしかだきない体 宗教史 日本列島は文化果つる所 一神教から輪廻 シャカの諸行無常と目連の死 「ちょとはなし」 天然自然の真理に成り変わって 死後の体と心 たすけ合って万物が成り立つ 神(守)名は係の名 生命を生み出す生命体 だめ(最後)の教かぐらつとめ うのみにするな思案しろ 前生と前世(霊肉一元論) つとめの理は天然自然の理 目の前の強者に服従が常識 「ちょとはなし」が出来ないよふぼく	
93	494 立教173年04月 (2010)	今、私が、つとめで成人	たすけ合いの標本 今、私がつとめで成人 怖いもの 昔からの思い込み「不思議が神」 へつらいが天皇を神にした 般若とは智慧のこと たすけることしかできない人間 つとめの理が神 一神教の神 教祖をかみ しんばしらとは取次人 こかん 般若の面 からとにほん 大和心と大和魂	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
93 続 き	494 立教 173 年 04 月 (2010)	今、私が、つとめで成人 読者からの声 もう一度読 んでください	八紘一字 復元 天然自然の理が神 二つの「こふき」 就御尋手続上申書	巻末図 「アニミズム」
94	495 立教 173 年 05 月 (2010)	思案して心定めて、ついてこい みかぐらうた抄	かまいつきものばけもの 基本教理原典 つとめの理が天然自然の理 かまい 憑きもの 化けもの 性細胞は生き通し 悟りばかり (天啓否定) 神とは偉い人 生き通し 天然自然の理 かぐら・ておどり 上と神 信仰とは 百人のうち九十九人まで悪 一人だけ善 やまと、から天竺、唐人 かんろだい 世界一れつ兄弟 私の生涯、数十億年の陽気づくめの生涯 十二下りのつとめでほこりを払う	
95	496 立教 173 年 06 月 (2010)	調和と違和	調和の象徴かんろだい 種・苗代をうをとみと表現 諸行無常 仏教の原則 日本仏教の現実 つとめの理が神 十二下りは六人同じつとめ方 かぐらつとめ 調和のシンボル 十人十色 温度・形態・代謝・増殖・陰陽 不調和の原因「さぼり」(怠慢)	

回数	通巻号 発行番号	タイトル	見出し	備考
95 続 き	496 立教173年06月 (2010)	神の理	たすけ人間たすけているから生きている 真理を教えるのが最大のたすけ 神に命令する法や術 天の理と天理人道 かぐらておどり再考 能力は万分の一でも ひながたは丸ごと通れ	
96	497 立教173年07月 (2010)	「神」天然自然の理が神	「かみ」とは かぐらつとめの神名とはつとめ人衆の役割名 かぐらつとめ 生命体のシンボル かみとは偉い人 日本語の伝統 神 神道の教理と天然自然の理 国民皆兵は殺し屋奴隷 かぐらつとめで教えた神も我々も同じ魂 リクエストに応じて 宗派を超えた「最後の教」かんろだいつとめ	
97	498 立教173年08月 (2010)	拝み祈禱でないつとめとさづけ かぐらつとめの調和が陽気	つとめは修業 修業の項目 受持、読、誦、解説、写経 まなびつとめ 許し(伝法灌頂) 理に基づいて たすける心に基づくか否かが幸不幸の分れ道 たすかる道のひながたは不勉強な暴言 教祖のため(最後)の教 天然自然の理が神	おたまは 蛙の子
98	499 立教173年09月 (2010)	天の理と天理	扇の伺いさづけ(入門)つとめ さづけ取次ぎの許し 思案 納得 陽気 お手入れ お知らせ わがみうらみ どっちでもええじゃないか服従しかない 神は理か上か 真理か権力か 信仰とは服従か信念か 神とは天然自然の理か超自然か 生き通しの私	

回数	通巻号 発行番号	タイトル	見出し	備考
98 続 き	499 立教173年09月 (2010)	ちばの広さ 人は神の子 成人の旬	たすけ人間の元のちば 心の子 かぐらておどり	
99	500 立教173年10月 (2010)	変わらぬが誠 解説	変わらぬが誠で変えるこの世界 イエスは何故、磔になったか 天理人道は天皇制の差別教育 むかし天の理、明治の天理（差別暴力） 私の働きで調和し陽気に変える かぐらは陽気の標本 かんろだいは有性繁殖のシンボル シャカ、イエス、教祖の素朴な表現 記紀の実際 通用しなかった すでにたすけ人間 報恩感謝のお道ではない つとめが先でつとめ場所（歴史の歪曲） よろづよは世界を変える宣言 守名買い こかんの許状 神・修験・仏の許し 秀司の許状 天輪王明神 さづけ 月日の社 赤衣着用	
100	501 立教173年11月 (2010)	神道は差別的霊魂観 一の道具 神名と守名	天皇制は霊魂に差別 前生と前世 ヒンズー教と天皇神道の霊の差別観 差別的な神の詞の使用 親孝行 忠君愛国 霊そのものの差別 おみちの原則は思案する 思案せず従う権力者教 天理教教会本部は未だに苦の娑婆の倒し合い人間と 教えている 水の中の泥さらい（教理の復元） 身体はすでにたすけ人間 宗教と信仰 大和魂から大和心へ 八紘一字の詔から壬申の乱をへて記紀神話	

回数	通巻号 発行番号	タイトル	見出し	備考
100 続 き	501 立教173年11月 (2010)	神道は差別的靈魂観 一の道具 神名と守名	みかぐらうた 一・二下り 大和神社事件の真相 教祖のつけた守名と山澤がつけた神名	
101	502 立教173年12月 (2010)	かぐらておどり・つとめの前歌 天然自然の理が神	平等を教えたかぐらつとめ 生き通し たすけ人間の標本かんろだい 世界観とたすけ人間の生き方 神名と守名 「ちば」とは わがみうらみ あなたは進化してすでにたすけ人間 さづけは入門 つとめは修業 神憑りではない、思案せよ よろづよ ちよとはなしはつとめの前歌	
102	503 立教173年01月 (2011)	一れつすますかんろだい かんろだい 拝み祈禱でないたすけつとめ 質問に答えて	かぐらつとめの前歌と本歌 山村御殿の節 をやがみ 祖神 親神 苦の娑婆 閻浮提 つとめのちばはこの世の極楽 教祖のかんろだい 三回忌の神仏 教祖の命を縮めた応法の理 かんろだい一条とはたすけ一条 思案して信念を持て まとめ 末代生通し	

顕正教祖伝 終了